

愛知県名古屋市における地震防災に関するフォーラムの開催について

平成20年3月9日（日）に愛知県名古屋市で地震防災に関するフォーラムが開催されました。「皆で学んで皆に広げる防災」をテーマに約260人が出席し、住宅の耐震化や地域における防災教育の重要性について活発な討議が行われました。

1. 講演

「皆で取り組む耐震化」福和 伸夫 名古屋大学大学院環境学研究科教授
耐震化の必要性について次のように解説されました。

- ・地震対策の基本は、良い地盤に住むこと、地震に強い家にする、家の中を安全にすることなどが必要であると指摘されました。
- ・以前には利用されなかった地盤の悪い場所に住宅や電力施設などの重要施設が密集し、次の東海・東南海・南海地震の被害は、過去の被害より大きくなることが予想される。
- ・政府の地震防災戦略は10年で被害を半減させる方針で、耐震化率を90%までに上げるための徹底的な意識啓発を行うこととしている。
- ・災害被害を軽減するためには、過去に起きた地震の教訓を生かすこと、住宅の耐震化を促進させること、耐震化を促進するための意識向上が最も重要であると指摘されました。その意味でも学校及び地域における防災教育の役割が必要になる。

2. パネルディスカッション「皆で進める防災教育と啓発活動」

(1) 「地震が起きた場合の取り組み」についての議論

パネリストからの活動状況について説明があった後、災害時の情報収集・支援対策、学校・地域・企業での防災対策、災害訓練の実施など災害対策の向上に関して議論が行われました。

(2) 「地域社会における防災教育や啓発活動」についての議論

パネリストから学校での防災教育活動の取り組み状況、地域での防災フェスティバルの活動状況、企業での防災活動状況、防災教育支援推進プログラムのモデル事業の推進、地域防災活動への支援策等について紹介された後、地域での防災教育の啓発活動に関して活発な議論が行われた。

(3) 会場からの質問

会場からの質問として、「地域住民への防災意識を高めるための効果的な方策はないか」との質問にたいして、地域での防災指導者（キーパーソン）を確保すること、住民に対して想像力を持たせ納得させること、学校での防災教育が重要であること、地域での啓発促進に関して学校・家庭・地域の連携が重要であること等の意見が各パネリストからありました。